

岐阜県嚙下障害研究会
モグモグ通信
 No. 35 (2020. 1 発行)

年会費納入について
 年会費 1,000 円
 郵便振替 岐阜県嚙下障害研究会
 口座番号 00890-3-114142
 2年間滞納すると退会となります

発行所: 岐阜県嚙下障害研究会
 事務局: 岐阜県加茂郡八百津町八百津 1286-7



**2019 年度第 1 回
 研修会(小児領域
 通算 54 回)レポート**

「想いに寄り添い続ける」

各務原市福祉の里 たんぽぽ
 看護師 野口 めぐみ

嚙下研究会と出逢い 10 数年、ぽつぽつと参加させていただいている研修で毎回心地よい刺激をもらって勉強させていただいています。

今回のショックは、研修前に始まりました。今回の研修には当方の施設を利用されている保護者 3 名が参加されました。参加されると聞いた当初、「我が子にとっては他に向き合わないといけないうことの方が大きく、食事を楽しむ気持ちには至っていない、うちとはかけ離れた話だわ」と保護者が辛い想いになるだけなのでは、と心配になりました。自分の中で、どう考えて良いものか困り、講師のプロフィールを検索しました。すると、そこには私の心を見透かしたような文章がありました。看護・介護でない、『子育て』を楽しんでほしい、という想いでお母さん支援をしてきていたつもりだった私自身が、保護者・子どもたちの想いを潰している張本人だったと気付かされました。そして楽しみに当日に臨み、市販の駄菓子の二次調理を新鮮に楽しむお母さんたちを見て、更に、この楽しみも私がいつも独り占めしていたなあとダブルショックを受けました。

食形態について施設で取り組む中で、2 つ疑問がありました。ひとつは、離乳食との兼ね合いについて、もうひとつは、経験の少ない子たちの味覚の育ちに対する考え方です。「発達期嚙下調整

を学ぶことでふたつの疑問は、すっきりクリアになりました。自分なりにまとめ、施設スタッフで共有し保護者にも示していけるよう、早速動きだしたところです。

どんな環境にあっても自分の生き方に選択肢があることの大切さ、新しいことにチャレンジさせたい！と当たり前と思う親心・子育てに寄り添い

続けられる支援者でありたいと思います。素敵な大高先生との出逢いに、共に歩める同士に、感謝です。



日 時: 令和元年 7 月 14 日 (日) 10:00~16:00
 会 場: 可児市福祉センター

テーマ: 「お母さんと子どもが笑顔になれる
 ミキサー食、マッシュ食、胃ろう食の作り方」

講 師: 管理栄養士 大高 美和先生
 NPO 法人ゆめのめ代表理事 (東京都日野市)
 重症心身障害児のための多機能型デイサービス
 スディケアルームフロー管理者

レシピ提供書籍: 「おかあさんのレシピから学ぶ 医療的ケア児のミキサー食」 南山堂
 「上手に食べるために 3」 医歯薬出版

日 程: 9:30~ 受付
 10:00~12:00 講義
 12:00~13:00 昼食・休憩
 13:00~15:30 調理実習
 15:30~16:00 質疑応答・事務連絡等

第22回摂食嚥下リハビリテーション 初級課程講習会レポート

「初級課程講習会と私」

ハートケア松岡
言語聴覚士 阪野恭子

私は岐阜市内の介護老人保健施設・デイケアと訪問看護ステーションで勤務しています。

初級課程講習会を受講したのは今回で4度目になります。それは、この講習会から毎回気づきやヒントを得られ、気持ちを新たにできるからです。

2度目までは自身の知識・技術不足を埋めたいと、強く感じての受講でした。摂食嚥下の基本的知識に加え臨床の映像があり、勉強になりました。苦手意識のあった口腔ケアも学ばせていただきました。また、かっぱえびせんを使った摂食嚥下のメカニズムや嚥下障害を体験する演習は解りやすく、職場の摂食嚥下勉強会でメンバーにも同じ体験をしてもらいました。

この2度の受講をとおして、利用者様やご家族様に自信をもって訓練の目的を説明し、質問にも答えられるようになりました。

3度目は一昨年、新入STに「勉強になるから…」と勧め共に受講しました。その時期、精神遅滞で脳血管障害後遺症を持たれた利用者様がおられ、小児領域の再学習の必要性を感じていました。また加齢により摂食・嚥下が困難になった利用者様の様子は発達の過程を逆回しするようで、映像を見せて頂いたことで食事形態の変更や姿勢調整の参考になりました。

4度目の今回は「歌（音楽）を介しての発声・発語練習」に興味を持ち、受講しました。これまでも歌を取り入れていましたが、選曲のポイントを知りたいと思いました。まずゆっくり声を出す歌「ふるさと」、次はテンポの速い歌「銀座の恋の物語」、最後にしっかり息を出す歌として「川の流れるように」が紹介され、実際に歌って

みて実感できました。

口腔ケアの講義では「ブラッシングの音」を聞くことで適切なブラッシング圧が判断できると教えて頂きました。これまで指先の感覚だけに頼っていたことに気づかされました。

毎回、基礎的な内容に時々のトピックを盛り込み、解りやすく丁寧な講義をして下さる先生方に感謝します。



日時：令和元年8月18日（日）9時30分～16時10分

場所：タウンホールとみか

講師：加藤孝憲氏 土岐市立総合病院 言語聴覚士

川口千治氏 朝日大学医科歯科医療センター 歯科衛生士

柴田一浩氏 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター

言語聴覚士

豊島義哉氏 国立病院機構東名古屋病院 言語聴覚士

第2回研修会 (成人高齢者領域 通算56回)レポート

「カニや白えび」を学んで・・・

町方歯科診療所
歯科衛生士 山越 陽子

日本一広い高山市で歯科衛生士として歯科診療所に勤務しています。

岐阜県嚥下障害研究会を通じて多職種の皆様との距離が近くなり、診療所以外でも微力ながら地域住民のお口にかかわる機会をいただいております。

近年、乳幼児から高齢者、障がいを持ってみえる方々のお口の一生を観ながら、「食べるって何!?!」「咀嚼って!?!」次々と湧いてくる自問と、「入れ歯はずして食べていいの?」「へんな食べ方

するんですけど！」等など、歯科衛生士に求められる多くの問いかけに、混乱と模索の毎日を過ごしておりました。

そんな時に拝聴したのが、第2回研修会、長谷剛志先生の『カニや白エビ』のご講演です。なんと、その頭文字から、複雑に絡み合った食支援の問題を『環境・認知機能・薬剤・心理・老化・栄養・病気』の関係から、多職種でひも解き、支援していこうというものでした。

午前中のご講演で、そのひとつひとつについて国内外の最新情報はじめ、予防や多くの対策から、各分野において科学的根拠の重要性を改めて知る事となりました。なかでも、長谷先生が研究された「咀嚼と誤嚥の関係」は、歯科衛生士として興味深く、「咀嚼」について熟考する機会になりました。

午後は、症例検討をグループワーク形式で進行し、個々に配布された「い〜とみるカード」を使用して、観察・洞察をしていきました。ミールラウンドの経験が浅くても、簡便でわかりやすく、同じグループの参加者のお話を耳にすることも勉強になりました。

終盤、長谷先生ご自身が療養者の方々からいただいた実際のメッセージと画像に「食べるとは何か・・・」目頭を熱くしながら、会場で同じように感じてみえる参加者の皆様と、この講義の続きを期待しました。

『カニや白エビ』から、また新たな課題に向かうエネルギーを頂戴した研修会に参加できたことを感謝しています。ありがとうございました。

日時：令和元年10月13日（日）10時～15時
 場所：タウンホールとみか
 演題：「カニや白えび」の関係から導く食支援！？
 ～医療と生活のはざままで「食」を考える意味とは～
 講師：長谷剛志先生 歯科医師
 公立能登総合病院 歯科口腔外科部長
 日程：10：00～12：00 講演
 13：00～15：00 症例検討、質疑応答

小児研修領域に参加して

岐阜南訪問看護ステーション
 理学療法士 山田智子

今回の症例検討会では、私が担当しているY君がモデルケースとなりました。毎週訪問していてPTとして関わってきましたが、その度にお母さんから食事や水分の相談を受けていました。とにかく水分の摂取量が少なく、近隣の児童発達支援施設の利用をはじめからほとんど量が変わらずどうしたらいいのかと聞かれる日々…。PTを受けた後だったら疲れているし水分を飲んでくれるかも！？と試しにやり始めたものの、私はSTではないので口腔機能はよくわからない。でも続けていたらなんとなくすすりのみも出来るようになって、就学を控えたいがチャンスなのでは？と思い、今回思いきってケースとして出させていただくことになりました。ただ、不安に思っていた通り、先生とのやり取りの中で出てくる自分の力不足…。明らかになればなるほど不安が募り、とにかく私1人ではどうにもならない！と今回の勉強会に彼をとりまく関係者の方々に参加してもらえるように働きかけることにしました。

当日、Y君に関わる先生方に参加していただき連携の機会を得ることも出来ました。そして野沢先生と彼がやりとりをしているのを見てY君ってこんな力があるんだ！こんなにあそべるんだ、理解しているんだと本当に驚くばかりでした。母にパンケーキを食べさせようとしたところを見てビックリ！「え！そんな事できるの！？」と思いましたが、その力はあったけど発揮できる環境が整ってなかったこと、それを先生が導いてくださったこと、とにかくすごい一言でした。

翌週、お母さんから「うちの子のためにあんなに人が集まってくれて嬉しかった。あの量を飲んでいるところを初めて見ました。学校の先生にも来てもらえて、来年から大変だと思うけどちょっと気持ちに余裕が出来ました」と感想をいただいています。野沢先生、参加者の皆様、ありがとうございました。

第3回研修会 (小児領域通算55回)レポート

第22回学術講演会 東濃大会 2019.12.1

テーマ：終活に向けた食べる支援
～当事者や家族に寄り添う意思決定のあり方、その後のケアについて～



野原 幹司先生



牧野 日和先生

《午前》講演1 認知症高齢者の食支援～終末期を見据えたアプローチ
 講師 野原 幹司先生 大阪大学大学院歯学研究科 准教授・歯科医師

《午後》講演2 みとり期の摂食嚥下障害支援の在り方
 講師 牧野 日和先生 愛知学院大学心身科学部健康科学科 准教授

グループワーク 講師 牧野 日和先生



グループワーク



二村洋代大会長



スタッフ一同

— 編集後記 — 第22回学術講演会におきましては、岐阜県をはじめ関係団体からのご後援を賜り深く感謝申し上げます。2020年度は加藤哲氏（かとうこども歯科クリニック）を大会長として、可児市を会場に準備を進めています。乞うご期待ください。
 お問い合わせ、学術講演会、研修会等の情報は研究会ホームページをご利用ください。（TOYO）